

# 再評価チェックリスト

## 1 事業概要

事業の名称	東京都市計画道路 放射第9号線	評価該当要件	5年間継続	4回目
実施主体	東京都(建設局)	事業所管部署	道路建設部街路課	
都市計画決定(当初)	昭和20年度	事業認可年度(当初)	平成10年度	事業期間: H10年度~H16年度
都市計画決定(最新)	昭和20年度	事業認可年度(最新)	令和元年度	事業期間: H10年度~R7年度
事業箇所	豊島区巢鴨三丁目~豊島区巢鴨五丁目	事業規模	区間延長:465m 幅員:40m	
事業概要	放射第9号線は、千代田区大手町一丁目から板橋区舟渡三丁目に至る、計画延長L=14.9kmの都市計画道路であり、区部の放射方向の骨格を形成する重要な幹線道路である。 このうち本事業は、豊島区巢鴨三丁目~同区巢鴨五丁目までの延長465mの区間において、現況の幅員23mから40mへ拡幅整備を行うものである。 当該区間の整備により、車道が拡幅され、区部放射方向のアクセス性の向上や道路交通の円滑化が図られる。また、電線類の地中化や街路樹の植栽、自転車通行空間の整備により、良好な都市景観が創出されるとともに、地域の防災性、安全性の向上が図られる。			

## 2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

社会経済情勢等の変化 (認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)
(社会情勢の変化) 本路線周辺の平成27年度の現況交通量は、平成22年度と比較して、横ばいとなっている。 現況自動車交通量【一般国道17号】(道路交通センサスによる) 平成22年度:25,973台/12h、平成27年度:23,478台/12h
(関連する他事業等進捗状況の変化①) 【補助第81号線(巢鴨)特定整備路線】 平成27年度に事業着手し、用地は24%取得済、工事は実施中 【環状第4号線(本駒込)】 平成15年度に事業着手し、用地は43%取得済、工事は未実施

## 3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	<b>2.2</b>		
現在価値化総便益額(B)	333.0億円	現在価値化総費用額	148.1億円
走行時間短縮便益	135.7億円	工事費	65.4億円
走行経費減少便益	17.0億円	用地費	80.4億円
交通事故減少便益	0.3億円	維持管理費	4.3億円
定性的効果			
<交通> ・交通渋滞の解消 ・物資流動円滑化への寄与 ・バスの定時性 ・迂回交通の減少	<くらし> ・商業・産業の活性化 ・公共施設へのアクセス向上		
<景観> ・都市景観の向上	<安全> ・交通事故の減少 ・バリアフリー化 ・自転車や歩行者のための空間確保		
<防災> ・緊急車両の走行 ・延焼遮断 ・災害時の避難路の確保			

## 4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (R2年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	6,875百万円	1,679百万円	8,554百万円
執行済額	5,837百万円	826百万円	6,663百万円
(執行率)	84.9%	49.2%	77.9%
用地取得状況 (R2年度末時点)			
取得予定面積(A)	既取得面積(B)	用地取得率(B/A)	
4,852㎡	4,329㎡	89.2%	
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
・権利者多数の区分所有マンションが複数存在することや、寺院の一部施設の移転先選定が難航し、用地折衝に時間を要している。			
事業の進捗状況・残事業の内容			
・残る未取得用地の折衝を進めている。 ・現在、共同溝換気口の移設工事(3箇所)を実施中。			

## 5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
・残る未取得用地の早期更地化を目指し、計画的に折衝を進めていく。 ・引き続き、残る共同溝換気口(1箇所)及び地下鉄換気口(2箇所)の移設工事を実施するとともに、電線共同溝設置工事や街路築造工事などを進めていく。

## 6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(新工法の採用など)(事業手法、施設規模等の見直しの可能性) 一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって、新工法、事業手法、施設規模等を見直す可能性は極めて少ない。
その他、日々の事業執行におけるコスト縮減等の取組み
・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。 ・無電柱化に当たっては、東京都無電柱化計画(R3.6改定)を踏まえ、新材料等を積極的に活用し、コスト縮減に取り組む。

## 7 対応方針(原案)

総合評価	(事業の必要性等に関する視点) ・当該区間の整備により、車道が拡幅され、区部における放射方向のアクセス性の向上や道路交通の円滑化が図られる。 ・電線類の地中化や街路樹の植栽、自転車通行空間の整備により、良好な都市景観が創出されるとともに、地域の防災性、安全性の向上が図られる。 (事業の進捗の見込みの視点) ・残る未取得用地の早期更地化を目指し、計画的に折衝を進めていく。 ・引き続き、残る共同溝換気口(1箇所)及び地下鉄換気口(2箇所)の移設工事を進めるとともに、電線共同溝設置工事や街路築造工事などを進めていく。 ・中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。
対応方針(原案)	<b>継続</b>